

おちゃわん通信

第 27 号 20180620



産地見学会報告など

食器リサイクル全国ネットワーク

代表 江尻京子

昨年 11 月、食器リサイクル全国ネットワーク会員で産地の見学をしました。

11 月 26 日夕刻、多治見に集合。グリーライフ 21 (GL21) に所属する事業者のみなさんと会食し、意見交換を行いました。

翌日 27 日には、GL21 にご協力いただき、車に分乗して、粉碎工場、製土工場、製陶工場などを見学し、最後は同日に行われていた例会にお邪魔し、終了となりました。例会では、前日の会食時同様に、食器回収の現状や消費者の思いなどを伝えました。

これからも、消費地と産地の交流が進むような企画を提案していきたいと考えていますが、なにぶん、「ちょっと行ってくる」「ちょっと話をしましょう」という距離ではありません。しかし、電話やメールだけで正しい情報のやり取りを行うには無理があります。年に 1 度、あるいは 2 年に 1 度は「産地ツアー」が実施できるようにしたいものです。

さて、会員のみなさんの活動ですが、回収してリサイクルしていくというだけでなく、リサイクルからリユースへ、あるいは、リメイクへと取組に変化が出てきています。また、スタートした時期とは異なることが課題になったり、悩みごとが増えたりもしています。地域や活動主体、連携の団体・人には差があり、「ソコ」の問題を「ココ」の課題として考えたり、事例を共有化していくこともなかなか困難です。

では「食器リサイクル全国ネットワーク」の役割ってなんでしょう。まずは、会員のみなさんの現在行っている活動や描いている活動、ネットワークへの期待など、出し合ってみませんか。食器のリサイクルを推進していくことを前提に楽しく、緩やかなネットワークを作っていきたいものです。



おちゃわん通信第27号掲載記事一覧

- 陶磁器製食器の産地見学アルバム
- 神明リフレックス
- ヤマカ陶料
- 食器リサイクル全国ネットワーク会員募集